

平成 21年 9月

渡邊倫子 学位論文審査要旨

主 査 渡 邊 達 生
副主査 渡 辺 高 志
同 稲 垣 喜 三

主論文

Clonidine premedication effects on inhaled induction with sevoflurane in adults: a prospective, double-blind, randomized study

(成人のセボフルラン吸入麻酔導入におけるクロニジン前投与の効果：前向き、二重盲検、無作為試験)

(著者：渡邊倫子、稲垣喜三、石部裕一)

平成18年 Acta Anaesthesiologica Scandinavica 50巻 180頁～187頁

審査結果の要旨

本研究の目的は、セボフルラン吸入による急速麻酔導入において、鎮静・鎮痛効果のあるクロニジン前投与することにより、笑気併用時と同等の効果が得られるのかを評価することである。笑気は揮発性吸入麻酔薬と併用して使用されることが多いが、手術室汚染、環境汚染（オゾン層破壊）の問題が指摘されている。そこで著者らは、笑気の代用になりうる薬として、鎮静・鎮痛効果を持つクロニジンの麻酔前投与を考えた。麻酔導入時間は、クロニジン前投与により笑気併用時と同等に短縮できた。またクロニジン前投与により、笑気併用時よりも気管挿管によるストレス反応・循環変動が抑えられた。またコスト面でも、クロニジン75 μg 錠は1錠6.4円、150 μg 錠で11.1円なのに対し、麻酔導入中のみ使用した笑気(20.0 \pm 3.3 L)のコストは220円と高価なので、笑気併用よりも安くなる。さらに麻酔維持にも笑気を使用する場合は、コストの差はより大きくなる。本研究は、クロニジンの前投与が麻酔導入維持において、笑気使用よりも手術患者の安全性の向上、環境汚染の減少、医療コスト削減という点で有用であることを示し、明らかに学術水準を高めたものと認める。